

この夏、「たばこ白書（厚生労働省）」が改定され喫煙、受動喫煙と疾患との因果関係を「確実」から「無関係の可能性」の4段階で評価しました。本人の喫煙と疾患との因果関係が証明されている「がん（肺・咽頭・食道など）」は「確実」。これまで「可能性あり」だった「脳卒中」「心筋梗塞」「糖尿病」も「確実」に危険性が上がりました。

また、受動喫煙との因果関係が確実とされる疾患は、「肺がん」「脳卒中」「心筋梗塞」「乳幼児突然死症候群」があります。両親とも喫煙者での乳幼児突然死症候群の発症リスクは、非喫煙夫婦の約5倍に上昇します。妊娠の報告と同時に「禁煙」を迫られる方は少なくありません。分煙で勘弁してほしいかもしれませんが、喫煙者の身体に付着した残留物は屋内で再び放散されます。



病院だより



大間病院
内科医長 二部 悦也

「風邪…風邪…風邪…」

朝晩、めっきり寒くなってきた今日この頃ですが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか？ 薄着で就寝したら翌朝、少し熱っぽい…よくあることですね？ この時期になると「風邪にかかった」という事で受診される方が多いので風邪について簡単に御紹介させていただきます。

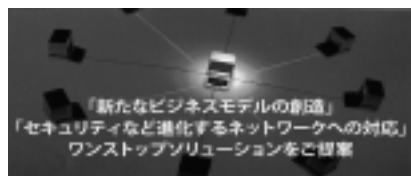
風邪とは一般的に“自然に治る「ウイルス」感染症であり、咳・鼻水・喉の痛みといった症状が出現する病気”です。つまり、咳・鼻水・喉の痛みが同じ時期に出現し、同じくらい困っているようであれば風邪でしょう。発熱があり、同時期に咳・鼻水・喉の痛みが出現した場合、それは風邪の可能性あります。今、風邪の症状でお困りのあなた、このような症状はいつから起きているのでしょうか？

余談ですが風邪の場合、「菌」に効果のある抗菌薬（ちまたでは抗生物質や抗生剤といわれるもの）は全く効果がありません。ましてや副作用があるだけだと考えられます。特に子どもの場合、不要な抗菌薬使用は肥満を助長するといわれており、将来の生活習慣病の原因になります。また、どんな菌にも効く抗菌薬を使いすぎると、全ての抗菌薬に効かない「耐性菌（どんな薬も効かない耐性のある菌）」を作り上げてしまいます。

話は脱線しましたが、症状が出現してからすぐだと症状が乏しい事があり、診断が困難な事もあります。なので、薬を飲んで改善が乏しい場合は同じ病院を再診するようにしてください。また、発熱・咳・鼻水・喉の痛みの他に症状がある場合、“喉の痛みだけ”のように特定の症状だけで熱が出ている場合、5日以上症状が続く場合は風邪でない可能性が考えられます。どんな症状があるか、どのくらい続いているかなどを診察室で教えてください。病気を診断するうえで非常に役立ちますし、みなさんによりよい医療を提供できます。



お客様の課題解決のお手伝いを
「誠心誠意」対応いたします。



FUJITSU パートナー

扶桑電通株式会社

■青森営業所

青森市長島二丁目13番1号
TEL. 017-775-2031(代) FAX. 017-774-4720

■八戸営業所

八戸市三日町2(青銀明治安田生命ビル)
TEL. 0178-44-1855 FAX. 0178-44-8494

《ホームページアドレス》

<http://www.fusodentsu.co.jp>